

企画趣旨

安全・快適な道路交通環境をめざして

ご存じのように、わが国の道路を取り巻く環境は、本格的高齢社会の到来、投資余力の減退、増え続ける交通事故件数・死傷者数などの問題に直面しています。さらに、道路に対するニーズは、変化・多様化しノーマライゼーションも浸透してきています。

このような社会的状況の変化を考えれば、安心して暮らせる生活環境の一部である道路空間をより安全性、快適性の高い空間としていくことは、今日の社会の強い要請であることは明らかです。こうした社会の要請に応えるべく努力をされている道路の調査、計画、設計、建設、管理などの現場の関係者に少しでも役に立てばと今回の特集を企画しました。

現在、国土技術政策総合研究所では、プロジェクト研究の一つとして「道路空間の安全性・快適性向上に関する研究」に取り組んでいます。

具体的には、道路空間の安全性向上のための研究として、道路利用者のヒヤリや交通事故等に基づく「道路の安全性評価手法」、高齢者等今後の道路利用者の特性を踏まえた「安全な道路構造・付属施設」、また、新規道路の整備から既存道路の管理まで、道路管理者による計画・設計等に対し、その検討プロセスを含め、外部学識者・専門家が評価・助言を行い事業実施後の道路の安全性を向上させるための「道路安全監査など専門家の知見の具体的・効果的活用方法」、さらに、全国の事業効果の定常的向上に資するよう、交通安全に係る事業の「全国的フィードバックシステム」を検討しています。

一方、道路空間の快適性向上のための研究として、地域の文化・社会・経済的活動等の実情、将来の動向、道路・道路網の利用実態等を踏まえた上で、今後の道路・道路網の提供すべき機能・役割を分析し、それらを実現していくための「道路網のあり方」、「沿道も含めた道路空間の利活用方策」、「合意形成手法」、「管理方策」等について研究を行っています。また、歩行者、特に身体障害者や高齢者といった歩行に困難を感じる機会の

多い歩行者の歩行を支援するため、ハード面のみでなくソフト面でのバリアフリー歩行環境を情報通信技術の活用により実現すべく、注意喚起、周辺情報提供、経路案内等のサービスを行うことを目標にする「歩行者ITS」の研究開発を行っています。

今回の特集では、全国の土木の現場において新しい知識を速報的に広げ、このため現場技術者に分かり易い表現で書くという土木技術資料発刊の趣旨を踏まえ、上記研究の内、国土技術政策総合研究所道路研究部道路空間高度化研究室において取り組んでいるもので、より効果的な交通安全対策、歩道・コミュニティゾーン・バリアフリーなど人のための道路、既存道路の有効活用のための研究成果を紹介しします。この特集で紹介する9つの記事では、研究の途中段階のものも含まれておりますが、関係者の方々に是非使って頂きたい、知って頂きたい内容のものを紹介しております。当然のことながら、道路空間の安全性・快適性向上のための研究成果は、今回がまずは第一段といたことであり、今後も有益な研究成果を得るよう努力するとともに、その成果をわかりやすく発信していきたいと考えています。

現場技術者の方々には、道路空間の安全性・快適性向上のための不断の努力に対し感謝申し上げる次第ですが、本特集で紹介する当研究室の安全・快適な道路交通環境形成のための研究成果が現場での事業推進の一助になれば、幸甚です。

森 望



国土技術政策総合研究所道路研究部道路空間高度化研究室長
Nozomu MORI